

国立国語研究所学術情報リポジトリ

高知県高知市朝倉米田方言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003025

方言録音資料シリーズ — 5

高知県高知市朝倉米田方言

土 居 重 俊 編

1 9 6 8

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」（代表者大石初太郎）の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所 話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、高知大学教授 土居重俊 が担当した。

も く じ

収録地点とその方言について…………… 2

表記について …………… 3

本 文

1. しばてん夜話 …………… 5

2. 土佐のオナゴのよもやま放談………… 18

注 …………… 40

収録地点とその方言について

1. 収録地点名： 高知市 朝倉 米田^{よねだ}

2. 収録地点の概観

昭和42年2月末調査では朝倉地区は世帯数4143人口14452。高知大学や学芸高校などがあるが、全般的には農村的な性格がかなり濃いようである。古墳などがある。産物としては農産物(米・麦など)。土讃線朝倉駅があり、市内電車・バスも利用される。

3. 収録した方言の特色

/z i/ /d i/ /z u/ /d u/ が区別され、鼻音化が聞かれ、母音の無声化が極めて少ないなど土佐方言の特質をそなえている。助詞の融合も顕著である。

4. 地点選定の理由

高知市の方言の保守地帯と観察した。川添繁尾さんは県外居住期間の長いのが難だが、土佐方言の本来の特質はよくそなえているし、話上手で、土佐のオナゴの元気な性格を100%所有しているので、一応採用してみた。

表 記 に つ い て

〔指定の字母以外に使用した字母，および使用した補助記号〕

字母・補助 記号の種類	語例と意味	(標準語訳)	音価についての注記
ti	ko:ti	(高知)	[tçi]
tu	kikutuka	(聞くんだって)	[t ^s u] [tu]
tja	ju:tjaru	(言ってやる)	[tʃa] [tʃa]
tju	omo:tju:	(思っている)	[tʃu] [tʃu]
tjo	hakaitjoku	(はかせておく)	[tʃo] [tʃo]
di	waradi	(わらぢ)	[dʒi]
du	siranduku	(知らずに)	[dʒu] [du]
dja	sukidja	(好きだ)	[dʒa]
dju			
djo	hanadjotjin	(鼻ちょうちん)	[dʒo]
()	挿入句的		

1. 標準語訳に適当に「ぢ」「づ」を使用した。
2. オノマトペアのわかち書きの表記にやや統一を欠いたところがある。
3. 鼻音化は濃淡があり，あまりはっきりしないものも一応体系的に表記した。(d̃ g̃)
Nの後のd, gは̃を記さなかった。
4. doḏai kibarikiqtjoqta やdoḏai ikioikiqtju: などのdoḏaiの最初のd, goṅgoṅ goṅgoṅ などの最初のgなども少し鼻音化が認められるようであるが，テキストには̃を記さなかった。

(1) しばてん夜話

録音日時 1967年1月8日

録音場所 農家(高知市朝倉^{よねだ}米田)

話し手

(略号) (氏 名) (性別) (生 年) (職 業) (居 住 歴)

K 川添繁尾 女 明治27年生 製米業 高知市朝倉でうまれ、23才から10年ぐらい神戸居住、以後朝倉

解説： 一の関というすもう取りが、しばてん(柴天狗。土佐に住む妖怪)の正体をつかまえたというので、近所の人が見てみると、わらじと馬のくつだった。そこで一の関はまだ、しばてんにばかされているぞというので、みんなが杉の葉でこのすもう取りをふすべて正気づかせる。そのいきさつがユーモラスに語られている。

K oman kitakajo ma: agarija nantuzejo oman
 あなた 来たかね。 まあ おあがりよ。 なんだって あなた
 joga nagaikini ateni⁽¹⁾ mata sibatenno⁽²⁾
 夜が 長いから、 わたしに また しばてんの
 hanasjo se:tukajo ija: oman ijoijo⁽³⁾ sibatenga
 はなし。 せよ だって、 いや あなた ほんとに しばてんが
 suki⁽⁴⁾ djanos: si oman soro:do sibatenga suki-
 すきだね。 あなた それほど しばてんが すき
 djaqtara mo' sibatenno jomesanni narija
 だったら、 もう しばてんの 嫁さんに おなりよ。
 sorjakendo hutugo: djakendo soro:do omanga
 それはしかし 不都合だが、 それほど あなたが
 hanasio se: se: ju: djaqtara sitjaro
 話を せよ せよと 言うのだったら、 してやろう。
 sikasi ne: oman horahorja⁽⁵⁾ ano: inoni⁽⁶⁾ itino-
 しかし ねえ あなた ほらほら あのう 伊野に 一の

sekito ju:tekara u:Nto otokomaeno sumotoriḡa
関と 言ってから、 うんと 男前の すもう取りが

oqturo siqtju:rogajo nani sirantukajo
いたろう。 知っているだろう。 なに 知らないだって、

ajakasi: ano otokomaeno sumotorjo sirankajo
あほうらしい。 あの 男前の すもう取りを 知らないの。

so:kajo so:kajo siran mona sijo:ḡa naiwajo
そうかね、 そうかね。 知らん 者は しょうが ないわよ、

nambo ju:tati honnara ategā korekara sono
どうといくら 言っても。 そんなら わたしが これから その

sibatenNi unto bakasaretato ju: hanasjo
しばてんに うんと ばかされたと いう 話を

sitjauki honde mimio mimino suo⁽⁷⁾ kozjanto
してやるから それで 耳を、 耳の 穴を たいそう

horimakuqtjoitekara kikijorijo e:kajo sono
徹底的にほっておいてから 聞いていなさいよ。 いいかね その

itinosekigā zinzini oman hiḡdie jobarete
一の関が 神祭に あなた 尾立へ 呼ばれて
(地名)

itato itekara oman sakjo doqsari no:ḡekara
行ったとき。 行ってから あなた 酒を どっさり 飲んでから

baqtabatasite moḡoqte kijoqtatuḡa mo:qte
ばったばたして もどって 来ていたとき。 もどって

kijoqtatokoroga oman mjo:na kura:i⁽⁸⁾ kukara⁽⁹⁾
来ていたところが、 あなた 変な 暗い 所から

hitoga dete kitekara sumo toro sumo toro
人が 出て 来てから、 すもう 取ろう すもう 取ろうと

ju:te⁽¹⁰⁾ ju:to ju:kini josidja onsjā: oraō⁽¹¹⁾
言って 言うんだって。言うから よしぢゃ 貴様は おれを

sumotorito ju:koto: siranduku sonna koto:
すもう取りと いう ことを 知らずに、 そんな ことを

i:ju:roḡa oraḡa mijoqte mijo buqtuketjaoto
言っているだろうさ。おれが 見えて みよ、 ぶつつけてやろうと

omo: tekara: koito ju:monde jaqtatuga jaqte
思ってから、 来いと いうので やったとき。 やって

moqtjamotja motjamotjasiju:utini mjo:ni
もっちゃもちゃ もちゃもちゃしているうちに、 変に

tiqkuto⁽¹²⁾ orano asiga mjo:ni harjo sasujo:ni
すこし おれの 足が 変に 針を さすように

tikutikusuru joto omoi daitato sondja: kini
ちくちくするよと 思い出したとき。 それだから

korja ika nto omo: te korja korja kjo: waneja
こりゃ いかんと 思って、 こりゃこりゃ きょうはだな、

mo: sjo: buga tukankendoneja mjo:ni ora:
もう 勝負が つかねけれどだな、 変に おれは

asiga itaiki kondomeni sjo: zejato ju: tekara
足が 痛いから、 今度目(次回)に しようぞよと 言ってから、

wakaretato se: kara oman koqkara inoma de
別れたんだった。 それから あなた ここから 伊野までと

ju: tara oman nanbo gotogoto aruitati iti-
言ったら、 あなた いくら ゆっくり 歩いても、 一

zika nka itizika n hana ba: de inanja ika ngadja-
時間か 一時間半ぐらいで 帰らねば いけないのだのに、

noni oman guruguru guruguru sokomokamo
あなた ぐるぐる ぐるぐる そこもかしこも

maikurima: qte kara oman utie inituitawa
歩きまわってから、 あなた うちへ 帰りついたのは

joakeni naqtato hoitara⁽¹³⁾ horja njo: bo ga
夜明けに なったんだった。 そしたら ほら 女房が

oman mo: anmari osoikini tomariju: to omo:-
あなた もう あんまり おそいから 泊っていると 思

tju: rogajo honde sono njo: bo: wa oman guq-
っているだろうさ。 それで その 女房は あなた ぐっ

suri kuturoi de nejoqtato nejoqtatokoro ga
すり くつろいで 寝ていたんだった。 寝ていたところが

oman itinoseki^{ga} korjakorja hajo: okiⁿka okiⁿka
あなた 一の関が こらこら 早く 起きんか 起きんか、

nanjo sijorja onsj^a mo: jo^{ga} aketazoto
何を しているか、 お前 もう 夜が 明けたぞと

ju:te ju:kini honde sono jomesan^{mo} biqkuri-
言って 言うから、 それで その 嫁さんも びっくり

site a:to⁽¹⁴⁾ ju:monde okit^{ato} tamaruka⁽¹⁵⁾ okite
して、 ああと 言うもので 起きたんだって。 おやおや 起きて

to: akete mitatokoro^{ga} do^{da}i o:go^{to}jojo
戸を 開けて みたところが、 たいそう 大事だよ。

kimonowa oman hikisjakaretjouwa ha^{da}kani
着物は あなた 引き裂かれているは、 裸に

naqtekara asimo dokomo oman barade⁽¹⁶⁾ kakimu-
なってから 足も どこも あなた バラで かきむ

siraretekara timodured^jato se:kara kinzjono
しられてから 血まみれだって。 それから 近所の

hito^{ga} mina okite kitekara uⁿ korja do:itati
人が 皆 起きて 来てから、 うん これゝ どうしても

sibateⁿni bakasaretekara u^dusoto sumo toq-
しばてんに ばかされてから、 雑草の茂みと すもうを取っ

tanitigainaito ju:kotoni naqtato hoide oman
たにちがないいと いうことに なったとき。 それで あなた

sono itinosekimo horja ma^{da} waka^{isi} nakana-
その 一の関も ほら まだ 若いし なかな

ka niⁿkimonono sumotorid^jaqtakini mijoqte
か 人気者の すもう取りだったから、 見ていて

mijo kondokoso ora^{ga} jurusan^zoto kondowa
みよ、 今度こそ おれが 許さんぞと、 今度は

ora^{ga} itekara hon^{to}: biqtokomaetekara hiko-
おれが 行ってから ほんとに つかまえてから 引き

zuqte mo^doqte kitekara mi^{se}monⁿi sitjaroto
ずって もどって 来てから、 見せものに してやろうと

ju:monde dōdai kibarikiqtjoqtatuga⁽¹⁷⁾ (korja-
いうので、 たいそう 威張りちらしていたんだって。 (こら

korja oman nanjo siju:zejo sono zamawa
こら あなた 何を しているの その さまは

jodārjo kuqte ijatija (笑声) hanađjo:tino
よだれを ぐって(たらして) いやだよ。 鼻ちょうちんを

daitekara inebuqtekara sonde atega ju:tja:-
出してから 居眠ってから。 それで わたしが 言ってあ

ra: hazimeni mimino suo hoqtekara kozjanto
らあ、 はじめに 耳の 穴を ほってから よくよく

kikijoto ju:te ju:tja:rūni so:kajo so:kajo
聞いてなさいと 言って 言ってあるのに。 そうか そうか

honna kikutukajo honna maqkoto kikukajo
それなら 聞くんだって。 それならほんとに 聞くの。

josi hōnnara sorekara sakjo ju:tjauki arja
よし それなら それから さきを 言うてやるから。 あれ

ija ija: ata: omanno hanađjo:tinni turare-
いや いや わたしは あなたの 鼻ちょうちんに つられ

tekara mi:ja oman dokomade hanasjo sitjoq-
てから、 見なさい あなた。 どこまで 話を してい

tajara wakja wakaranjo:ni naqtekara wasure-
たやら わけは わからねように なってから、 忘れ

te simo:tagajo sa:to dokomadedjaqturono
て しまったよ。 さあと どこまでだったろうねえ。

biqto omanga ju:te mito:seja a: so:ka so:ka
すこし あなたが 言って みてくださいよ。 ああ そうか そうか

joqsi wakaqta ano biqtokomaeni iku tokoro-
よし わかった。 あの ひつつかまえに 行く ところ

đjaqtano josi wakaqta) hōndene: se:kara
じゃったねえ。 よし わかった。) それでねえ それから

sono itinoseki ga go:ga suite orenkini
その 一の関が 腹が 立って いられないから、

mi jo qte mi jo ko ndowa bi qto koma et ja o to o mo :-
見ていて みよ、 今度は ひっつかまえてやろうと 思

te kara jo ru no z ju : zi gō ro ni ma ta so no : hi di -
ってから、 夜の 十時頃に また その 尾立

ma ã de i ta to i te se : ka ra ko nda ko q to ja ka ra
まで 行ったとき。 行って それから 今度は こちらから

su mo to ro su mo to ro to ju : te ho q so i ⁽¹⁸⁾ ko e ã de
すもう 取ろう、 すもう 取ろうと 言って 細い 声で

ju : ta tu ga ju : ta to ko ro ga o ma n mu ko : ka ra
言ったそうだ。 言ったところが あなた 向うから

ma ta su mo to ro su mo to ro ju : to jo si ã ja mi -
また すもう 取ろう、 すもう 取ろうと 言うんだって。 よし 見て

jo qte mi jo ko n ba n ko so to o mo : te ka ra sa : ko i -
いて みよ、 今晚こそと 思ってから、 さあ 来い

to ju : te ju : ma ma o ma n ma ta ku ra no si ta e
と 言って、 言うまま あなた またぐらの 下へ

b ju q to te o ja q ta tu ga na ze ka to ju : ta ra so no
びゅっと 手を やった(入れた)とき。 なぜかと 言ったら その

ma ta ku ra ka ra si ba te n ga so r ja ko i to ju : ta
またぐらから しばてんが そら 来いと 言った

to ki ni ma ta ku ra ka ra s ju q to ni gē ru to o mo :-
ときに、 またぐらから しゅっと 逃げると 思って

t ju : gā ã ja ki ni ho nde s ju q to te o ja q te bi q to -
いるのだから。 それで しゅっと 手を やって ひっつ

ko ma e ru to o ma n te gō ta e ga a q ta ka jo ho nde
かまえると、 あなた てごたえが あったよ。 それで

te gō ta e ga a q ta ki jo si ã ja o n s ja : o ra o ba ka -
てごたえが あったから、 よし 貴様は おれを ばか

si jo q ta ga ko n ba n ko so to ko ma e ta zo to o mo : te -
していたが、 今晚こそ つかまえたぞと 思って

ka ra zu ru zu ru hi q pa q te mo do q te ki ta to
から、 ずるずる ひっばって もどって 来たんだって。

hoide kondowa warikata ini jo:ga hajakaqtani-
それで 今度は わりかた 帰りようが 早かったらしいが。

ka:ranga se:kara mođoqte kijoqtatokoroğa
それから もどって 来よったところが、

mo: zibunmo mjo:ni mađa asino kizuno noko-
もう 自分も 変に まだ 足の 傷の 残

riğa hirihiri itaikini uN zo:kusoga wari:
りが ひりひり 痛いから、 うん しゃくだあ、

mo: honto: ora: sibatenno utađemo uto:tja-
もう ほんとに おれは しばてんの 歌でも 歌って

roto omo:tekara sokođe jaqtatuga kiki jorijo
やろうと 思ってから、 そこで やった(歌った)んだって。聞いていなさいよ。

so:regane tamarukane ju:beno ju:meni ne:to
そうれがね たまるかね 夕の ゆうめに ねま
(たいへんだ)

tjaqtjato kawai ano kono teo hi:te onsja
ちゃっちゃと 可愛い あの この 手を 引いて おんしゃ
(はやし) (貴様は)

nan nara ora sibatenjo ontjan sumo toro
なんなら おら しばてんよ おんちゃん すも 取る
(なんだ) (おちさん)

toro:tija tjaqtja:qto' ju:monde jaqtatuga
取ろうちや ちゃっちゃあっと 言うので やったとき。
(てば)

(geni uso sorja uso sono utaga oman sono
(実は うそ。 それあ うそ。 その 歌が あなた その

zibunni aro: kota naiđjaika sono utawa
時分に あろう ことは 無いじゃないか。 その 歌は

pegi: hajamasanga ko:ti: kitekara horja
ベギー 葉山さんが 高知へ 来てから、 ほら

ano: nangokutosao hajaraita tokiđjarogajo
あのう 南国土佐を はやらせた ときだろうさ、

sono tokini dekita utađjakini honde sono
その ときに できた 歌だから、 それで その

tokini sono utaga aro: haza naikendo atemo
ときに その 歌が 有ろう はずは 無いけれども、 わたしも

mjo:ni omanga neburusi mo: aho:nika:ranki⁽¹⁹⁾
なんだか あなたが 眠るし、 もう あほうらしいから、

tikuto uta uto:te mitatokorojo) josi se:-
すこし 歌を 歌って みたところよ。) よし それ

karadja se:kara oman soreo biqtokomaetekara
からだ。 それから あなた それを ひっつかまえてから

hiko zuqte modorijoqtatokoroga mjo:ni tegotae-
ひきずって もどっていたところが、 変に てごたえ

ga karu: naqtato arja do: ju: mondjaro ora-
が 軽く なったとき。 あれ どう いう もんだろう、 おれ

ga saqkini hiqpaqte iki ju: tokinja zongai
が 先刻 ひっぱって 行っている ときには 案外

omokaqtato omo:tanoni⁽²⁰⁾ mjo:ni karuijoto omo:-
重かったと 思ったのに、 変に 軽いと 思っ

te omo:takendo ma: hajo: utie indekara ko-
て 思ったけれど、 まあ 早く うちへ 帰ってから こ

no biqtokomaete kita sibateno minnani mi-
の ひっとらえて 来た しばてんを みんなに 見

setekara minnani biqkurisaitjaoto omo:tekara
せてから、 みんなに びっくりさせてやろうと 思ってから、

dođai ikioikiqtju:ğajaki horja honde zu:to
たいそう 勢こんでいるのだから、 ほら。 それで ずうと

uti modooqte kite se:kara mađa sono toki
うちへ もどって 来て、 それから まだ その とき

joga aketja:senkini honde minna:ni korakora
夜が 明けてはいないから、 それで みんなに こらこら

minna: dete koi jo dete koi jo oraga konban-
みんな 出て 来いよ、 出て 来いよ、 おれが 今晚

koso sibateno hiqtokomaete kitazo onsira:ni
こそ しばてんを ひっつかまえて 来たぞ お前たちに

misetjara:ja misemonni suruzoto ju:monde ju:tato
見せてやるよ 見せものに するぞと いうので 言ったとか。

ju:to soqkaramo koqkaramo dorja misete mo-
言うところから ところから どれ 見せて も

rao dorja misete moraoto ju:monde oman kin-
らおう、どれ 見せて もらおうと いうので、 あなた 近

zjono hitoga atumaqte kite mitatokoroğa
所の 人が 集って 来て 見たところが、

oman soreğa do:zejo sono oman hiqpaqte ki-
あなた それが どうかね その あなた ひっばって 来

ta monwa nanto omou a: nanto omoudokorono
た ものは 何と 思う。 あー なんと 思うところの

sa:gikajo oman soreğa oman sirikireno wa-
さわざかね あなた。 それが あなた しりおれの わ

radito nmano kutudjato nmano kutu ju:tara
らちと 馬の くつだつて。 馬の くつと 言ったら

nanzejotu kota arukajo oman omanra atera
何だねという ことは あるかね。 あなた あなたたち わたしなどと

meqso honna tosja tığa:nnoni siran kota
あまり そんなに 年は 違わないのに、 知らん ことは

aruka mukasi ano hora imamitaini kuruma
あるものか。昔 あの ほら 今みたいに 車は

nai tokini nmani senakae nanikani owaiteka-
無い ときに 馬に 背中へ なにやかや 負わしてか

ra tintin tintin ju:te hiqpaqte kijoqtađjai-
ら チンチン チンチン いって ひっばって 来ていたじゃない

ka ano tokini horja kanağutuo uqtjoite so-
か。 あの ときに ほら 金ぐつを 打っておいて そ

no ue: warađe sita kutuo hakaitjoqturoğajo
の 上へ わらで つくった くつを はかせていたんだろう、

areğa oman usino kutudjaika so:jo sono
あれが あなた 牛の くつじゃないか。 そうよ。 その
(馬のの誤り)

oman usino kututo warađino oman sirikireo
あなた 牛の くつと わらちの あなた しりきれを

hiqpaqtekara korega sibatendjate mo:qte
ひっぱってから、 これが しばてんちゃといって もどって

kitatuga se:kara oman kinzjono hitoga do-
来たんだって。 それから あなた 近所の 人が まっ

daï o:goto sawagijo kendo oman korja ikan-
たく たいへん(な) 騒ぎよ。 けれど あなた これは いかん

zoto do:itati maða sibatenni koituwa dama-
ぞと、 どうしても まだ しばてんに こいつは だま

saretju:kini do:zositekara hajo: korjo nao-
されているから、 どうかして 早く これを なお

sanja ikanga do:surjajato ju: monde se:ka-
さねば いかんが、 どうするのかと いう もので、 それか

ra minna:ga josi sijo:naizoto honde oraga
ら みんなが よし しょうがないぞと、 それで おれが

jamae itekara zanzi ano: sugino hao tote
山へ 行ってから、 すぐに あのう 杉の 葉を 取って

kuruki sorede sorede husubemakuro: se:kara
来るから、 それで それで 徹底的にふすべよう、 それから

unto koi tjao daite kitara soreo nomasejato
うんと 濃い 茶を 出して 来たら、 それを 飲ませてやろうと

ju:monde dodai sono sugino hade gongon gon-
いうので、 たいそう その 杉の 葉で ごんごん ごん

gon sono: oman itinosekio husubemakuqtatuga
ごん そのう あなた 一の関を ふすべにふすべたんだって。

tokoroga sorja tanukiðja nakaqtaki kon kon-
ところが それは たぬきでは なかったから こん こん

towa juwazaqtakamo sorja siranejo ata: so-
とは 言わなかったかも それは 知らんよ、 わたしは。それ

rja sirankeendo oman sorede daibu honkiga
は 知らないけれど あなた それで だいぶ 本気が

tuite oman ko mjo:ni hurahura meo batikuti
ついて あなた こう 変に ふらふら 目を ばちくち

batikutisai tekara mjo:ni su:qto naqte kita-
ばちくちさせてから 変に すうっと なって 来た

tuga ikana oman itinoseki demo se:kara a
そうだ。 いかな あなた 一の関でも それから あ

ijoi jo korewa sibate nni damasaretato kendo
ほんとに これは しばてんに だまされたと しかし

kono sibate nwa nakanaka wakate dja nai zoto
この しばてんは なかなか 若手では ないぞと、

nedosjo kutjouzoto nedosjo kuwanja: koroho-
年期を 入れているぞと、 年期を 入れなければ これほ

domade e:bakasankinito ju: hanasiga ho:bo:e
どまで ばかすことができぬからと いう 話が 方々へ

hirogoqtato hirogoqtakini hondja:kini mo:
ひろがったとき。 ひろがったから それだから もう

jorowa oman hitoga mo: e: to:ranjo:ni naq-
夜間は あなた 人が もう よう 通らんように なっ

tawajo sibate nga bakasukini bakasukini ju:
たわよ、 しばてんが ばかすから ばかすからと いう

kotoni naqte nani: ima oman sibate nga oru-
ことに なって。 なに 今 あなた しばてんが 居る

katuka ajakasi: koto i:naja oman ima hidiwa
かだって、 ばかばかしい こと 言いなさるな あなた。 今 尾立は

ano: oman do:rowa hiro naqte jamawa oman
あもう あなた 道路は 広く なって、 山は あなた

kirihiraite simo:tekara hankana kuni naqte
切り開いて しまってから、 繁華な 所に なって、

oman jorumo josirakujoqpito oman o:kena
あなた 夜も 夜通し あなた 大きな

kurumaga dondon to:riju: djaika do:ite ima-
車が どんどん 通っているではないか。 どうして 今

goro sibate nga oruzejo kendo oman ijoijo sibate n-
頃 しばてんが 居るの。 けれど あなたは ほんとに しばてん

ni kodawaru omaNwa ijoijo sibatenga sukidja-
に こだわる。 あなたは たいそう しばてんが すきだ

ne: soro:do sibatenga sukidjaqtara horja
ねえ。 それほど しばてんが すきだったら、 ほら

atega e: koto osietjara:jo harimajatjo:ni
あたしが よ いこと 教えてあげるよ。 播磨屋町に

horja ko:tikenno omotjao ano omotjadja nai
ほら 高知県の おもちゃを、 あの おもちゃぢ ない

nai omijage omijage so:so: omijage uriju:
ない。 おみやげ、 おみやげ、 そうそう おみやげ 売っている

misega aruro:gajo akojara nju:ko:tijara⁽²¹⁾
店が あるだろう。 あそこやら ニューコーチャら

daimarujarano ano omotjano uribae ite mi:ja
大丸やらの あの おもちゃの 売り場へ 行って みなさい。

honnara sibatenga horja ano agurao kaite
それなら しばてんが ほら あの あぐらを かいて、

harae mjo:na ano harakakeo site atamae mjo:
腹へ 変な あの 腹かけを して、 頭へ 変

na tenganmitaina mono hiqtuketekara oman
な 天蓋(がい)みたいな もの くっつけてから、 あなた

sibatenga uriju:djaika are hjakunizju:en
しばてんが 売っているじゃないか。 あれ 百二十円
(「売」のあやまり)

daitara aru aru hutoigadjaqtara unto takai-
出したら ある ある。 大きいのだったら うんと 高い

ken-do hoqsoigade e:wajo oman hjakunizju:en
けれど 細いので いいわよ。 あなた 百二十円

daitekara ko:te kitekara dokozoe oitjoki
出してから 買って 来てから、 どこかへ 置いておおき。

oman ijoijo oman sibatenga sukidjane: josi
あなたは ほんとに あなたは しばてんが すきだねえ。 よし

se:kara ma: tonikaku sibatenna hanasiwa
それから まあ とにかく しばてんの 話は

korede owarimasita inurukajo un omosirokaq-
これで 終わりました。 帰るの、 うん おもしろかった

takajo honnara e:wajo honde inurja' oman
たの、 それなら いいわよ。 それで 帰るなら あなた

daibu osoizejo konban kio tukete inijo siba-
だいぶ おそいよ、 今晚。 気を つけて 帰りな。 しば

tenga dete kuruzejo sibatenga oman sukidja-
てんが 出て 来るよ。 しばてんが。 あなた すきだか

ki n: ko:nai hitotumo ko:nai pjuqto hasiq-
ら。 ん こわくない、 すこしも こわくない、 ぴゅっと 走っ

te inurutukajo honnara inija inija ko:na-
て 帰るんだって、 そんなら お帰り、 お帰り。 こわく

kerja ata: okuqtjaranki honnara ojasumi
なければ わたしは 送ってやらんから。 それなら おやすみ。

sorja kita: horja mite mi: omanno sono
そら 来た。 ほら 見て ごらん。 あなたの その

kaoiro hitoqtumo kao iro naidjaika soreba:-
顔色。 すこしも 顔に 色が 無いじゃないか。 それくらい

no kotoni biqkurisite kara oman do:zejo
の 事に びっくりしてから、 あなた。 どう

konogorowane: tujo: naqtanowa kutuzita
この頃はねえ、 強く なったのは、 くつした

n.o.n.a.to onagodjato ju: kotoni naqtju:rogajo
《言いさし》と 女だと いう 事に なっているだろう、

oman sonna koto siqtjoqte oman soreba:ni
あなた。 そんな 事 知っていて あなた それくらいに

atega sorja ju:te odokaitaba:no kotoni
わたしが そらと 言って 驚かしたくらの 事に

biqkurisinaja ajakasi: meqso omanmo kibaq-
びっくりしなさんな、 ばからしい。 あまり あなたも えらそう

tati ikan ikan inurukajo honnara mo: kondo-
にしても いかん、 いかん。 帰るの、 それなら もう こんど

koso ojasumi baiba::i un jo:jo inda mo: ho-
こそ おやすみ。 バイバイ。 うん やっと 帰った。 もう ほ

Nto: iqtumo iqtumo kitekara hitoni sjabera-
んとに いつも いつも 来てから、 人に シャベら

itekara aa:::no N:N mo' atemo daret a mo:
してから。 ああーの んーん もう わたしも つかれた。 もう

maqkoto sjabeqtekara nebuto:te nebuto:te
ほんとに シャベって、 ねむくて ねむくて

oren dorja mo: maqkoto ne:tjao ne:tjao
いられない。 どれ もう ほんとうに 寝てやろう、 寝てやろう。

(2) 土佐のオナゴのよもやま放談

録音日時 1967年1月8日

録音場所 農家(高知市朝倉米田)

話し手

(略号)(氏名)(性別)(生年)(職業)(居住歴)

K 川添繁尾 女 明治27年生 製米業 高知市朝倉でうまれ23才から10年ぐら
い神戸居住、以後朝倉

S 栄枝千代 女 大正元年生 農業 高知市朝倉でうまれ19才から6年間香
川県居住、以後朝倉

X 不明

解説：七十台と五十台との婦人が、服装・食物・家のあかり、神祭その他について、思い出を興味深く語る。マッコト・タマルカなど強調的な語いが随所にあふれ、きかぬ気の土佐人気質を反映している。

K (笑声) taḍa waro:tebakari oqtaṇḍja wakarāṇḍja
ただ 笑ってばかり いたのでは わからないちゃ

ika⁽²²⁾ josi honnara ju:tjao ategane: ano: ni-
ないか よし それなら 言ってやろう。 あたしがねえ。 あのう。 二

zju:sitineṇmaeḍjaki: niqsiṇsenso:ṇo hazimaqta
十七年前だから 日清戦争の 始まった

tokini ate ṇmareṭjugajaki hora
ときに わたしは うまれているのだから ほら。

S tama:ruka daibuni narudjanaika
おやまあ だいぶに なるじゃないか。

K daibuni nara:iḍja oman sitizju:si:jo honde
だいぶに ならあ。 あなた 七十四よ。 それで

atega hora zinzo: itinenno tokino koto
わたしが ほら 尋常 一年の ときの ことを

ju:tjauki jo: kiki ja
言ってやるから、 よく お聞き。

S ju:te mi:
言って ごらん。

K sono zibunno oman senseiwane: maqkoto oman
その 時分の あなた 先生はねえ。ほんとに あなた

imawa oman mjo:na haikarani titiraitekara
今は あなた 奇妙な ハイカラに ちらしてから

oman senseimo ma: ju:tara waruikendo onago-
あなた 先生も まあ 言ったら 悪いけれど、 女

no senseiwa osiroi tuketekara maqkoto hai-
の 先生は おしろい つけてからほんとに ハイ

karadjakendo aterano tokino senseiwa oman
カラだけれど、 わたしたちの ときの 先生は あなた

ano hakamao tuqte ebitjano hakamao tuqte
あの はかまを はいて えび茶の はかまを はいて、

horja
ほら。

S so: so:
そう そう。

K se:kara oman atama ju:tara jokoboriga:no
それから あなた 頭と 言ったら 横堀川の

wasureta darjarosanno: arja: jokoboriga:no
忘れた 誰さんかねえ、 あれは 横堀川の

darezejo arja:
誰かね あれは。

X otakasan⁽²³⁾
おたかさん。

K otakasan otakasanmitaina anna itjo:gaesino
おたかさん。 おたかさんみたいな あんな いちょうがえしの

kamio senseiga ju:tjoqtaki hora
髪を 先生が ゆっていたから ほら。

S h:N
ふーん。

K soreba: mukasino kotođjaki se:kara omosiro-
それくらい 昔の 事だから。 それから おもしろ

idjaika atega zinzo: itine ne ita tokini
いぢゃないか わたしが 尋常 一年へ 行った ときに、

sono zibunwa ju:tara oman ma: unto kanemo-
その 時分は 言ったら、 あなた まあ うんと 金持

tino koto binboninno koto unto arakiga aq-
の 子と 貧乏人の 子と うんと へだたりが あっ

taki hora honde kanemotino kowa ano sekida⁽²⁴⁾
たから、 ほら。 それで 金持の 子は あの せきだを
(雪駄)

haitju: to binboninno kowa minna: zo:ridjaq-
はいていると、 貧乏人の 子は みんな そうりだっ

takini se:kara kimonowa tutuqpođjaki tutu-
たから それから 着物は つつぽだから、 つつ
(そでの短い着物)

qpo:de se:kara kamja sjobosjobja: se:kara
っぽうで、 それから 髪は しっぽしぽだ。 それから

atera: ano: nani jo jo kasurino kimono ki:te⁽²⁵⁾
 わたしら あのう あれだ、 かすりの 着物を 着て

murasaki no ano: heko: bjo sitjoqtaki hora
 紫の あのう へこ帯を していたから ほら。
 (結んでいた)

otokomo onagomo sonna mondjagtaki sorekara
 男も 女も そんな ものだったから。 それから

senseiga tamaruka zurari:qto narabetekara
 先生が まあ ずらりーっと ならべてから

itatokoroga oman atewa irono maqkuroi kami-
 いたところが あなた わたしは 色の 真黒い 髪

no unto kuroi kodjagtato so:ndja:kini oman
 の うんと 黒い 子だったとさ。 それだから あなた

otokono kono kue ata: narabasaretene: hoita-
 男の 子の ところへ わたしは ならばされてねえ、 そした

ra utino ano: oka: sanga ju: kotonja: sensei
 ら うちの あのう おかあさんが いう ことには、 先生

sensei sono kowa ano: onagono kode gozaima-
 先生 その 子は あのう 女の 子で ございま

suga ju:te ju:ta tokoroga arja ozjo:tjande-
 すがと 言って 言った ところが、 あれ お嬢ちゃんで

sitaka^(補注) anmari ogenkina kao sitju:kini honde
 したか あんまり お元気な 顔 しているから、 それで

otokono kokato omoimasitato ju:te juwareta-
 男の 子かと 思いましたと 言って 言われた

ba:đjagini meqso imađemo beqpi ndekara oman
 くらいだから あまり 今でも べっぴんでから あなた

kawairasi: kao sitjorana: jo omanra: no tokja
 可愛らしい 顔 してはいないよ。 あなたなどの ときは

donna kotojaqtazejo
 どんな ことだったの。

S atera oman omanga sono sekiđano koto ju:ki-
 わしら あなた あなたが その せきだの こと 言うか

ni ju:keNdone: ano sekiḁao haite oman
ら 言うけれどねえ、 あの せきだを はいて あなた

kataiqpo miḡiasigā konda hiḁariasjo suqte
片一方 右足が 今度は 左足を すって、

ito:te ito:te maqkoto honto: sekiḁano ko:
痛くて、 痛くて、 実際 ほんとに せきだの こう

surea:seḁe
すれあわせて、

K N:
んー。

S rjo:ho:no oman honto' asigā taite ata' tigā
両方の あなた ほんとに 足が すいぶん わたしは 血が

dete itakaqta koto: oboetju:ḡa
出て、 痛かった ことを 覚えているが。

K so:jo ano sekiḁaḡa hora u:nto atui ka:ḁja-
そうよ、 あの せきだが ほら うんと 厚い 皮だっ

qtaki horja
たから ほら。

S so:jo so:jo
そうよ、 そうよ。

K honde ano: horja kiribusajo kiribusajo ki-
それで あのう ほら かかとよ、 かかとよ、 か

ribusao tukimakuqturo⁽²⁶⁾
かかとを 徹底的についたろう。

S arewa oman tuqtuite tuite rjo:ho:o doḁai
あれは あなた つっついて ついて 両方を まあ

honto: tigā dete are itakaqta koto ima obo-
ほんとに 血が 出て、 あれ 痛かった ことを 今 覚

etju:ga tigo:ta monzejo
えているが 違った ものだよ。

K se:kara omanra do:zejo ateragā ensokuni iku
それから あなたなど どうなの、 わたしらが 速足に 行く

tokinjane: oman jakimesijo horja
ときにはねえ、 あなた 焼飯よ、 ほら。

S so: so:
そう そう

K kendo meqso tīgā:nkajo honnara omanra:to
けれど あまり 違わないかね、 それなら あなたたちと

latera:to
わたしたちと。

S ano siroi hurosikie jakimesjo o:te tikuwao
あの 白い ふろしきへ 焼飯を 負って 竹輪を

K huta:tu huta:tu
二つ 二つ。

S tikuwao irete jo: kosiraete moro:te ita
竹輪を 入れて、 よく こしらえて もらって 行った

kotođjaqtaga
ことだったが。

K se:kara hora imadja:qtara sui to:đja: nan-
それから ほら 今だったら、 水筒だ 何

dja: ju:kendo sonna monga arukane: taka:
だと いうけれど、 そんな ものが あるのかねえ。 全く

imano kowa tokuzejo maqkoto nanja:ro kajaro
今の 子は 得だよ ほんとに。 何や かや。

S rjuqku-saokuđja nanja:ro sui to:đja: ju:jona
リュック サックだ 何とか 水筒だのと いうような

mono: kakete ikuğa mukasja oman usiroe
ものを かけて 行くが。 昔は あなた うしろへ

hurosikie
ふろしきへ。

K soreğa e: tokorođjaqtaki hora
それが いい ところだったから ほら。

S so: so: siroi hurosikiğa e: tokorojo
そう そう 白い ふろしが いい ところよ。

K e: tokoro[~]djaqtakine: jo[~]gorekajaqtekara⁽²⁷⁾ se:kara
 いい ところだったからねえ。 ひどくよごれて、 それから

mjo:na zo:rjo horja: kokoe turikuqtekara
 変な そうりを ほら ここへ つってから、

ano: jokoqtjoe jokoqtjoe turikuqtekara se:-
 あのう 横の方へ 横の方へ つってから。 そ

kara ima[~]djaqtara oman sensei[~]ga daresore:
 れから 今だったら、 あなた 先生が 誰それと

ju:te namae jo:[~]dara⁽²⁸⁾ hai[~]dja ju:te ju:kendor
 言って 名前を 呼んだら、 ハイだなんて 言って 言うけれど、

sono zibuⁿnja ai[~]dja i:joqtazejo ai ju:tara:
 その 時分にゃ アイなんて 言っていたよ。 アイ と言ったら

zjo:to:[~]djaqtazejone: hai[~]dja: ju:te ju:jo:na:
 上等だったよねえ。 ハイだなんて 言って いうような

kota: nakaqtaki hora: soreba: taka:
 ことは 無かったから、 ほら。 それぐらい ほんとに。

S jo: se:kara maekakeo site itano:
 よう、 それから 前かけを して いたねえ。

K N: so: so:
 んー、 そう、 そう。

S mukasino hitowa mukasino kowa: maekakjo:
 昔の 人は 昔の 子は 前かけを、

na[~]gai maekakjo site jo: gaqko:e itaga:
 長い 前かけを、 して、 よく 学校へ 行ったが。

K makoto gaqko:e ikuni maekakjo sita arja:
 ほんとに 学校へ 行くのに 前かけを した。 あれは

do: ju: mon^ddjaqtaro: horja sekara oman
 どう いう ものだったろう ほら。 それから あなた

ijarasi: hanasi[~]djakendo obēnzjo ite maekake:
 いやらしい 話だけれども、 お便所へ 行って 前かけで

teo huitari sitene: ima tjanto tenu[~]guio:ko:-
 手を ふいたり してねえ。 今 ちゃんと 手ぬぐいを

site (itju:) imawa mo: tjan to namaeo kai-
うして (している。) 今は もう ちゃんと 名前を 書い

tju:ki wari: kota serarenzejo oman zibunno
ているから、 悪い 事は してはいけないよ。 あなた 自分の

namaeo tjan to mune: kaitja'uki horja
名前を ちゃんと 胸へ 書いてあるから ほら。

S se:kara oman atja: oman ano: nanino simano
それから あなた わたしは あなた あのう 何の 縞(しま)の

kimono: oqte moro:te soreo ki:te ite tama:-
着物を 織って もらって、 それを 着て 行って たいへん

ruka hotaejoqte tukueno sumino kugie hiqka-
たいへん たわむれさわいでいて、 机の 隅の 釘へ ひっか

kete tamaruka kagizjakinisite mođoqte kite
けて、 おやおや 鍵の形に裂いて もどって 来て、

tai te dukareta koto: e: wasurenga:
ひどく しかられた ことを よう 忘れんが。

K omanra:mo taitja wari koto surugajaqturo
あなたたちも ずいぶん わるさを する者だったろう、

mo: imawa mo: wari koto se: ju:tati tosi
もう 今は もう わるさを しろと 言っても 年

joqte e: senkendo sono zibunnja taitja wari
よって することができぬけれど。 その 時分にゃ ずいぶん わる

koto sijoqturo:kini⁽²⁹⁾
さを していただろうから。

S taitja sita sita
ずいぶん した、 した。

K se:kara hora se:kara oman ano: kimonojaramo
それから ほら それから あなた あのう 着物なども

so:đjaqtakendo
そうだったけれど。

S taberu monmo tigo:tazejo maqkoto⁽³⁰⁾ mukasito
たべる ものも 違ったよ。 まことに 昔と

imato ju:tara maqkoto tigo:tazejo mukasja
 今と 言ったら、 まことに 違ったよ。 昔は、

K mukasijaqtara itiban e: saiga taimono koroba-
 昔だったら 一番 よい おかずが 里いもの ころば
 (里いものに砂糖)

si horja horja horja taimono korobasijo
 し。 ほら ほら ほら 里いもの ころばしよ。
 を入れて煮たもの)

S sono taimono korobasiga kirai de hanenoke
 その 里いもの ころばしが きらいで はねのけ

hanenokesite kutaga ma: mukasiwa nimonon
 はねのけして 食ったが、 まあ 昔は 煮物

daikono nimonoguraiga sekinojamakajo
 大根の 煮物ぐらいが 関の山かよ。

K N: N daikono nimonoga sekinojama se:kara mi-
 んん 大根の 煮物が 関の山。 それから み

soziruto ju:tara horja uti de tunko tunko
 そしと 言ったら、 ほら うちで つんこ つんこ

tuite mada misomo meqso: maziraNgano mjo:ni
 ついて まだ みそも あまり まじらないの 変に

ko:zikusaijo:naga de horja se:kara sjo:ju⁽³¹⁾
 こうじ臭いようなので ほら。 それから 醤油と
 しょうゆ

ju:tara minna uti de tukuri joq taki
 言ったら、 みんな うちで つくっていたから。

S uti minna kau koto ga arumonka
 うち 皆 買う ことが あるもんか。

K kau kota zenjo tukau kota nakaqta zenjo
 買う ことは、 金銭を 使う ことは、 なかった。 銭を

tukauti daitai mo:ke hitotumo naigadjaki
 使うたって、 だいたい もうけ ひとつも 無いのだから

horja honde ko:ku monmo tigo:ta ima goro
 ほら。 それで こう 食う ものも 違った。 今頃

nanja:ro jo:sjoku dja kare: dja nandja ju:ke-
 何とか 洋食だ カレーだ 何だと 言うけ

Ndo kare:~dja oman nandja: ju:tati arja
れど、カレーだ あなた 何だと 言っても、 あれは

mukasino ozijazejo (笑 声) kendo imano kowa
昔の おじやだよ。 けれど 今の 子は

tjanto oman konogoro ano nani: ite mi:ja
ちゃんと あなた このごろ あの 何へ 行って ごらん。

kahuedemo ite mi:ja tjanto oman itekara
カフェでも 行って ごらん。 ちゃんと あなた 行ってから

kosjo kaketekara oman mukasino koto tigo:-
腰を かけてから、 あなた 昔の 子と 違っ

te arjo ku: koto siqtju:kini
て あれを 食う ことを 知っているから。

S siqtju:
知っている。

K taka: jaqta monzejo: maqkoto korja koko
まったく でかした ものだよ。ほんとに。 これは ここ

zju:nen sitara do: narurono:si makoto donna
十年 たったら どう なるだろうね、 実際。 どんな

mon kuidasuro'no nanbo ju:tati komjo kuwan
もの 食いだすだろうね。 何と 言ったって 米を 食わんように

naruzejo
なるよ。

S torino maruqta~demo jaite ku:ba:ni nara:jo
鳥の 丸ったでも 焼いて 食うくらいに ならあよ

omanmo
あなたも。

K honde atega ima horja maqkotonono kotoga
それで わたしが 今 ほら ほんとの ことが

komjo tuki ju:ro: (nizju:ninen) jarukendone:
米を ついでいるだろう、 (二十二年) やるけんどもねえ、

mainen mainen doqsari komeno tuku rjo:ga
毎年 毎年 どっさり 米の つく 量が

heqte kitaki minna: komjo kuwanjo:ni naq-
へって 来たから みんな 米を 食わんように なっ

tawajo
たわよ。

S pano ku:kajo
パンを 食うかよ。

K i: pandja: ra:mendja: nanja:rođja ju:te
いー パンだ ラーメンだ 何やらだと 言って

sonna monbaqkari kutekara komjo rokuni
そんな ものばかり 食ってから 米を ろくに

kuwanzejo
食わんよ。

S mukasja mugimesja kuijoqtağano:
昔は 麦飯は 食っていたがねえ

K mugimesi mugimesi mugimesimade e:kendo oman
麦飯 麦飯 麦飯まで よいけれど、 あなた

mada taimomesi
まだ 里いもめし。

S taimomesi imomesi
里いもめし いもめし。

K sore: sio iretekara oman siogaro:te tja:
それへ 塩を 入れて、 あなた 塩がらくて 茶を

iretara bokaboka hokaboka imobaqkariğa uite ho-
入れたら ほかほか ほかほか いもばかりが 浮いて ほ

rja
ら。

S nukui utinara e:kendo hiyo: naqtara koroko-
ぬくい うちなら いいけれど 寒く なったら、 ところ

ro korokoro soti ma:si koti ma:si hanete
ろ ころころ そっち 廻し こっち 廻し、 はねて。

K se:kara horja oka:ğa oka:ğa mesjo joso:te
それから ほら おっかあが おっかあが めしを よそって

kureru tokinja horja imono keo imono keo
くれる ときには ほら、 いもの 毛を、 いもの 毛を

suteta aho: ju:mai otojanni siroi mesjo
捨てた(ら)、 あほう 言いなざるな、 おとうさんに 白い 飯を

kuwasanja ikankini omanra~ga imo kutjoqtara
食わさねば いけないから、 あなたたちが いも 食っていたら

e:~dja: ju:tekara maqkoto geni sono sonna
いいだとか 言ってから、 ほんとに 実に その そんな

koto ju:kendo makoto honna koto ju:ke~do so-
こと 言うけれど まことに そんな こと 言うけれど、 そ

no zibunni so: ju:jo:na hego:na mono: kute
の 時分に そう いうような よくない ものを 食って

kita ko~ga moqto djo: buni aqtane:
来た 子が もっと 丈夫に あったねえ。

S so:~dja imano kowane:
そうだ、 今の 子はねえ。

K imano kowa anmarikoto honto~ nmai mondja
今の 子は あまり 本当に うまい ものだ

nandja kore~ga zi:jo:~dja kore~ga zi:jo:~dja ju:-
なんだ、 これが 滋養だ、 これが 滋養だと 言っ

te kuwasukendo warikata jowai zejo
て 食わせるけれど、 わりかた 弱いよ。

S so: juwa: tosi joriwa nandemo kuwanja ikan....
そう 言うよ、 年よりは。 何でも 食わねば いけない...

K nandemo kuwanja ikan nandemo kuwanja ikanto
何でも 食わなきゃ いけない 何でも 食わなきゃ いけないと

ju:
言う。

S wari: kota: nakaqta~ga imano kowa e: mono
悪い ことは 無かったが、 今の 子は よい もの

kute ano warui
食って あの 悪い

E N zuqto makoto bjo:sinnakine: de:jaqpari
ん ずっと ほんとに 病身だからねえ、 で、 やっぱり

mukasimitajoni taimo kutari karaimo: mugi-
昔みたよに 里いもを 食ったり さつまいもを 麦飯

mesjo kutarisitekara hutoraita-monga zuqto
を 食ったりしてから ふとらせた(生育させた) 者が ずっと

djo:bunaki sono ho:ga zuqto e:zejo
丈夫だから。 その 方が ずっと よいよ。

S sorekara konogoro hora denka denka denkaka-
それから この頃 ほか 電化 電化 電化化

ḍja ju:te denkimono denkimonobaqkasi
だと 言って 電気もの 電気ものばかり。

K so:jo zenjobaqkari tuko:te
そうよ、 ぜにをばかり 使って。

S mukasjo mite mi:ja ranpu
昔を 見て ごらん、 ランプ。

K ranpu
ランプ。

S hū:
ふーん。

K atenkurane: makoto sono zibunnja
わたしのうちなどはねえ、 ほんとに その 時分には、

S atera:
わたしなどは、

K ranpuno so:ḍjo saserareturo:ḡajo
ランプの 掃除を させられたんだろうさ。

S denkiḡa tuitaḡa atega oman ikutuba:no toki-
電気が ついたのが わたしが あなた いくつぐらいの とき

ḍjaqturo:no: so:ḍja itutuka muqtuba:no toki-
だったろうねえ。 そうだ 五つか 六つぐらいの とき

ḍjaqturoka
だったろうか。

K biqkurisituro
びっくりしたろう。

S sono tokinja maqkoto biqkurisita ako: naq-
その ときには まことに びっくりした。 明るく なっ
te
て。

K ako: (笑 声) kendo omanra mađa so: ju:kendo-
明るく けれど あなたなんか まだ そう いうけれど
ne: atera kođomono tokinja andođjaqtađejo
ねえ、 わたしなど こどもの ときには 行燈(あんどん)だったよ、
ando ando
あんど、 あんど。

S atera: andowa siran
わたしなど あんどは 知らん。

K siranro sono tokinjane: ano: andođene:
知らないだろう その ときにゃねえ あの あんどでねえ。

N:kara joru hora minna kođomojarağa sjo:ben-
それから 夜 ほら みんな こどもなどが 小便に

ni okosanja ikanro: sono tokini hora suqto
に 起こさねば いけないだろう。 その ときに ほら すっと

denkiđjaqtara suqto tuku kendo ranpuđja
電気だったら、 すっと つく けれど、 ランプだなんて

ju:tara oman kesitjouro:ğajo oman hojao
言ったら あなた 消しているだろうさ、 あなた。 ほやを
(ランプの外側の球)

ue: agetjoite sino tukete sijoqtara kowai-
上へ あげておいて しんを つけて していたら あぶない

ro: sondjakinine: ano to:sinto ju: hora
だろう。 それだからねえ あの 燈心と いう ほら

aburae tuketa aterano tokinja andođjaqtaki:
油へ つけた。 わたしたちの ときにゃ あんどだったから、

honde denkiđjaqtara oman suqto ima hineqta-
それで 電気だったら あなた すっと 今 ひねった

ra tukuro:~gajo taka: kendo zeitakuni naqta
ら つくだろう。 たいそう しかし ぜいたくに なった

monzejo: honde minna ima tosigā: maenja
ものだよ。 それで みんな 今 年が 前には

gozju:nendjaqtakedo ima sitizju:nendja ju:ken-
五十年だったけれど、 今 七十年だと 言うけれ

done: imano hita moqto bjo:kiga dekita
どねえ。 今の 人は もっと 病気が できた。

kendo do: mouzejo omanra denkika denkika
けれど どう 思うの あなたなど 電氣化 電氣化と

ju:te zenja na:nbo~demo irukendo ma: omanra
言って、 ぜには いくらでも いるけれど、 まあ あなたなど

aterakara mitara daibu wakaikendo soro:~dono
わたしなどから 見たら だいぶ 若いけれど、 それほどの

ko:kagā aruto omoukajo
効果が あると 思うかね。

S hono kari mukasiwa hora zenimo oman to:hu-
その かわり 昔は ほら ぜにも あなた 豆腐

~ga sansenba:~de kaejoqta zibunaja:kini
が 三銭ぐらいで 買えていた 時分だから。

K so:jo so:jo hiyo:tinga sitiziqsen sitiziqsen
そうよ、 そうよ 日傭(よう)賃が 七十銭 七十銭

komega zju:sansen-gorinba:~djaqtaki atera mako-
米が 十三銭 五厘ぐらいだったから。 わたしなど ほん

to osikoku-henroni itaga
とに 御四国 遍路に 行ったが。

S imano hitoni ju:tati oman honto:ni suruka-
今の 人に 言っても、 あなた 本当に するものか。

jo:

K aterane: zju:sitiba:no toki osikoku-henroni
わたしなどはねえ 十七ぐらいの とき 御四国 遍路に

itagane: ano horja ohendo hendo hendo ken-
行ったがねえ。 あの ほら お通路 通路。 通路。 けれ

do utino ođi:jangano: onagono kowa ano:
ど うちの おぢいさんがねえ 女の 子は あのう

tiqto osikoku-heNrođemo itekara uruse: meni⁽³²⁾
ちっと 御四国 通路でも 行ってから 苦しい 目に

a:itjokanja: josoe jomeni itati ikanki:đja
会わしておかなければ、 よそへ 嫁に 行っても だめだからなどと

ju:tekara atera sono toki osikoku-heNroni
言ってから、 わたしなど その とき 御四国 通路に

itagane: sono tokinja oman warađjo haite
行ったがねえ。 その ときには あなた わらちを はいて

itazejo warađjo dođai kiribusakara kagato:
行ったよ、 わらちを。 ほんとに かかとから かかとを

tumetekara tiga detene: maqkoto taka: ju:-
つめてから、 血が 出てねえ。 まことに 実際 言っ
(何と言ったっ

tati nanimokamoga kendo mjo:ni mukasino
でも 何もかも。 けれど なんだか 昔の
てほんとに)

hito tigo:te imano hitowa mjo:ni hakuzjo:-
人と 違って、 今の 人は 変に 薄情

nato omoja'sen
だと 思いは しない。

S hakuzjo:naro:kano:
薄情だろうかねえ。

K ata: moqto mukasino hitoga zjo:ga aqta so-
わたしは もっと 昔の 人が 情が あった、 そ

rja kinjoğa naniğotođja: ju:tati sunguni
ら 近所が 何事だと 言っても すぐに

hasiriko:de kitekara oman jo: sewa sijoqta-
走りこんで 来てから、 あなた よく 世話を していた

kendo imano hita oman sa:ran kamini batja
けれど、 今の 人は あなた さわらぬ 神に 罰は

nasini heqheqto ju:jo:na kaqkositekara oman
無しに へっへっと いうような 格好をしてから、 あなた

hego:na kotonja meqso jobini kite kuren
よくない ことには あまり 呼びに 来て くれん。

S kinzjono hito~demo darega kitju:jaramo siran-
近所の 人でも 誰が 来ているやかも 知らん

zejo
よ。

K sorekara horja kono jone~da~dja:ti so:~djaika
それから ほら この 米田でも そうじゃないか、

josokarano hitoga N:to hairikonde kitekara-
よそからの 人が うんと はいりこんで 来てから

ne:
ねえ。

S wakaran wakaran
わからん、 わからん。

K se:kara kinzjono tukiai~demo anmari senjoni
それから 近所の つき合いでも あんまり しないように

naqtamono hora: hondjakendo atera denkika-
なったもの ほら。 そうだけれど わたしなど 電気化

~dja nandja ju:kendone: denki~gotatuo irete
だ 何だと 言うけれどねえ、 電気ごたつを 入れて

nerunja nejoukendo aqpari mukasino anka~ga
寝るには 寝ているけれど、 やっぱり 昔の あんかが

e: noboseru ata:
よい。 のぼせる わたしは。

S kono~goro horekara mukasino hitowa maqto
この頃 それから 昔の 人は もっと

ko: omairi~dja: ju:jo:na kotomo sinzinto ju:
こう お参りなんて 言うような ことも 信心と いう

koto sijoqtakendo
こと していたけれど。

K so:jo so:jo so:jo
そうよ、 そうよ、 そうよ。

S aNmari imano hitowa mite mi:ja maqkoto
あんまり 今の 人は 見て みな。 全く

oman kamisamawa dokoni arujara
あなた 神様は どこに あるやら。

K hitotumo so:~dimo senjoni naqtaki tika~gora:
すこしも 掃除も しないように なったから、 近頃は。

S so:~dimo seNdokoroka teo awasete (o~gamu) kota
掃除も しないどころか、 手を 合わせて (拝む) ことは
(明瞭でない)
nairo:to omouga
無いだろうと 思うが。

K nanzoto ju:tara he kamisama~ga sorjo:~do
何だと 言ったら、 へ 神様が それほど

erakaqtara nihonwa kamino kuni~kaqtjora
えらかったら、 日本は 神の 国勝っていた

kaqtjora~dja ju:tekara honna idikusono wari:
勝っていたとか 言ってから、 そんな 意地の 悪い

kotobaqkari ju:tene: nanbo kamisandjati oman
ことばかり 言ってねえ。 いくら 神様だって あなた

sonoini omoujo:ni ikukajo kendo mukasimo
そのように 思うように いくものかね。 けれど 昔も

horja onabaredja ju:tekara makoto otigo~san-
ほら 御神幸だと 言ってから ほんとに 御稚児さん

ga dete ikujara se:kara omankuno horja ko-
が 出て 行くやら。 それから あなたのうちの ほら こ

~domoramo urajasuno majo mo:ta~djaika kire:-
どもらも 浦安の 舞を 舞ったじゃないか。 きれい

ni urajasuno majo mo:tarisitekara imama~de
に 浦安の 舞を 舞ったりしてから。 今まで

hora zuqto kamisan~no onabare ju:tati buraku
ほら ずっと 神様の 御神幸と 言っても 部落

burakue iki joqtakeđo ima gaqko:đjane: mo:
部落へ 行っていたけど 今 学校だねえ もう。

S gaqko: gaqko: mo: ima gaqko:ni naqtju: ota-
学校, 学校。 もう 今 学校に なっている。 御

bisjomo nai
旅行も 無い。
(神輿安置所)

K otabisjomo naijoni naqtane:
御旅所も 無いように なったねえ。

S nai nai iēga taqte simo:te mukasino ota-
無い, 無い。 家が 建って しまつて, 昔の 御旅

bisjomo
所も。

K se:kara ano minna:ga horja mjo:na sumotori-
それから あの みんなが ほら 変な すもう取り

no mjo:na mono kite se:kara mađa omanra
の 変な ものを 着て, それから まだ あなたなど

ateto tosi ga tīgauki sirankendo mukasino
わたしと 年が 違うから 知らないけれど 昔の

onabare ju:tara mo: si:one: si:no mi i:
御神幸と 言つたら, もう 椎(しい)をねえ 椎の 実 いー

si:no mio karakara karakara karakara karakara
椎の 実を カラカラ カラカラ カラカラ カラカラと

ju:tekara iqtekarane: soreo uru se:kara
いってから 炒(い)ってからねえ それを 売る それから
(音を立てて)

surume mise ga uri ju:gāga so:rja kita sorja
するめ 店が 売っているのが。 そうら 来た。 そら

kita sorja kita minna kita tenagāga maikuru
来た。 そら 来た。 みんな 来た。 長い手が まがる。
(適訳無し)

tenagāga maikuru ko:ta ko:tato ju:monde
長い手が まがり廻る。 買った, 買ったと いうあんばいで,

tenagāga maikuru ju:tara surumeo jaitara
長い手が 巻きこむと 言つたら, するめを 焼いたら,

omaN tjaratjaraqto maikururo:~gajo. hoNdeno:
あなた チャラチャラと 巻きこむだろう。 それでねえ

ziNzino onabare: ikuro: itara minna: sono
神祭の 御神幸へ 行くだろう、 行ったら みな その

si: no mio gaza gaza gaza ju: se: kara kaNsjo
椎の 実を ガサ ガサ ガサ 音たてる。それから 甘蔗(し)。

kaNsjo horja kaNsjo no o: kenagao urijou
甘蔗。 ほら。 かんしょの 大きなのを 売っている。

S taite areo suwabugtaga nagaigao kataide
ずいぶん あれを しゃぶったが、 長いのを かついで

modoqte
もどって。

K sonna koto~djaqtakenDo ima~goro oman kaNsjo
そんな ことだったけれど、 今頃 あなた 甘蔗を

sitari oman surum~dja ju: tatine: oman tjan-
したり、 あなた するめなんて 言ってもねえ、 あなた ちゃん

to kikaid~e nosite simo: te tjan to sitja: uro:
と 機械で のして しまつて ちゃんと してあるだろう。

ano zibunnja oman surumjo hitotu kau ju: ta-
あの 時分には あなた するめを 一つ 買うと 言って

ti ma: nisenka sanse~djaqtakenDone: horja
も、 まあ 二銭か 三銭だったけれどねえ。 ほら

dodai nigijakana monjo
まったく にぎやかな ものよ。

S so: jo omaturini juku ju: tara goseN moro: ta-
そうよ お祭りに 行くと 言ったら、 五銭 もらった

ra o: morai.
ら 大もらい。

K zjo: to: zjo: to: zjo: to: sorja tiqto morai-
上等、 上等、 上等。 それは すこし もらい

sugiruba:~djaqta soreba: soreba: no kotojaqta-
すぎるくらいだった。 それくらい それくらいの ことだった

kenđo kjo:biwa mo: sonna koto ju:tati ikaN-
けれど、 こんにちば もう そんな ことを 言っても いけな

zejo horja onabaredja nandja ju:tati
いよ。 ほら 御神幸だ 何だと 言っても。

S so:jo
そうよ。

K kenđo ma: otagaini kore nagaikisijoqtara
けれど まあ おたがいな これ 長生きしていたら、

tukino sekai ikuto ju:jo:na zibunni naqte
月の 世界へ 行くと いうような 時分に なって

kitakinino: honde mutukasi: ma:
来たからねえ。 それで むずかしい まあ。

S sansenja gosenba: moro:tati kodoma ima
三銭や 五銭くらい もらっても、 子供は 今

jorokobja senzejo
喜びは しないよ。

K maqkoto ima oseibođjatinno: hjaquenba: jaqta-
ほんとに 今 御歳暮だってねえ、 百円ぐらい 出した

ti jorokobanzejo
って 喜ばないよ。

S jorokobumonka senen jaranja: kodoma jorokobja
喜ぶものか。 千円 やらなきゃ、 子供は 喜びは

senzejo nantja: kaenkini
しないよ。 何も 買えぬから。

K ma: tonikaku nanja:rođjano: ano: naniğa si-
まあ とにかく なにやらだねえ、 あの 何が し

nuku: seikatuga siniku: naqtane.
にくく、 生活が しにくく なったねえ。

S siniku: naqta
しにくく なった。

K mo:kerunja mo:kerukendo horja hu:taiga
もうけるには もうけるけれど、 ほら 費用が

irukini i: maqkoto kendo korja koko zju:-
いるから、 いー 実際 けれど こりゃ ここ 二十

nenmo sitara do: naruro:ne: ke~do koremo
年も したら、 どう なるだろうねえ。 けれど これも

tanosimizejo⁽³³⁾
楽しみだよ。

S ma: na~gaikjo senja: ika~nga
まあ 長生きを しなければ いけないが。

K na~gaikjo senja: (ika~nga) atera mo: ija taq-
長生きを しなければ (いけないが), わたしなど もう いや。 あき

ta na~gaikimo taqta taqta mo:
た。 長生きも あきた、 あきた。 もう。

注

1. しばてん夜話

- (1) [p. 5] ate; atei 一人称。男女共用。高知市では若い人は、ほとんど使用しない。
- (2) [p. 5] sibaten は、ちびで、すもうがすき。人をみかけると、勝負をいどむ。相手になった大の男も、例外なく手玉にとられる。語原は「芝天狗」と言われる。田岡典夫氏は「天狗の幼虫」と解釈している。
- (3) [p. 5] 「いよいよ暑くなります。」というような共通語的用法と異なる。「ここは、いよいよ暑い。」などのように、「たいそう」「ひじょうに」の意に使用される。
- (4) [p. 5] no: si という終助詞には、多少相手を尊敬する気持がある。
- (5) [p. 5] 土佐の女性には hora hora; horja; horja horja などが頻出する傾向がある。相手の注意を引こうとする一種の強調現象か。
- (6) [p. 5] 高知県吾川郡伊野町
- (7) [p. 6] ほかに「鼻の穴」 hanano su
- (8) [p. 6] 普通は ku: rai というところ。
- (9) [p. 6] omaNku (あなたの家) などがある。
- (10) [p. 6] いわゆる「と抜け現象」
- (11) [p. 6] onsi は「お主(ぬし)」から由来すると言われる。男子が使用するが、相手を軽べつしている場合などである。もっともごく親しい者同志が使用する場合は、かえって親愛をあらわす語とも言える。
- (12) [p. 7] 普通 tikuto が現われるが、これはその強調形。
- (13) [p. 7] /s/ にしばしば /h/ が対応する。
- (14) [p. 8] a: は厳密には aā 高知市およびその近傍で、60 台以上の婦人が使用する。感嘆詞。
- (15) [p. 8] 土佐人が頻発する感嘆詞 tama: ruka とも。
- (16) [p. 8] この bara は、とげであろう。
- (17) [p. 9] kibarū は、共通語と形は同一であるが、意味がすこしずれ、「いばる」「えらぶる」などの意。kiqtjoru は、ほかに rikimikiqtjoru などがある。「力む」の強調形。
- (18) [p. 10] hosoi の強調形。
katai — kaqta i

$\overline{kakui}$ — $\overline{kaqkui}$
 $\overline{matai}$ — $\overline{maqtai}$ (弱い)

- (19) [p.12] ~nika:raNは、土佐の代表的方言連語。
 arja nekonika:raN (あれはどうも猫らしい。)
 asuwa do:mo hurunika:raNze jo (あすはどうも降りそうだよ。)
- (20) [p.12] omo:taniとも。この方がむしろ多く使用される。
- (21) [p.16] 高知市の商店街。

2 土佐のオナゴのよもやま放談

- (22) [p.19] この次にSさんのかすかな声が聞こえる。omaNga i:ja (あなたが言いな)であろう。
- (23) [p.20] 第三者の発言。障子をへだてて、誰かが答えている。中年の女性の声である。
- (24) [p.20] 竹の皮のぞうりの裏に皮を張り、鉄を打ったもの。この鉄でよくかかとのあたりを打ち、傷をした体験を筆者も持っている。
- (25) [p.21] ki:te;ki:ta;ki:tjoru (着)
 ni:te;ni:ta;ni:tjoru (似・煮)
- (26) [p.22] 「突きに突いたろう」とも訳せる。このmakuruは
 kakimakuru (書)
 hukimakuru (吹)
 nomimakuru (飲)
 dukimakuru (づく〔しかる〕)
 などと productive である。これも一種の強調現象である。
- (27) [p.24] jo~gorekajaruは、jo~goreruの強調形。
 hjo:~gekajaru (ふざける)
- (28) [p.24] この形は中年以上の人が使用する。(若い世代は joNdaraである。)ほかに
 ko:da (噛んだ)
 to:de (飛んで)
 o:da (編んだ)
 などがある。
- (29) [p.25] sijoqturo:は、若い世代なら sijoqtaro:
- (30) [p.25] makoto とも。男女を問わず、土佐人同士の会話によく現れる副詞。これも土佐人が強調的に物を言おうとする傾向の反映である。
- (31) [p.26] 土佐では sjo:ju:と、endingを引き音にするのが一般。

(32) [p.33] 普通は ur us ai が現われるべきところ。

(33) [p.39] zがdに近く聞こえる。

この会話には overlap がしばしばあらわれる。意気投合した者同志が話をされていて、話が調子に乗って来るとこうした現象をおこすのは、むしろ自然の行き方かも知れない。

(補 注)

* [p.21] 「お嬢ちゃん」は、四つがな識別の上から言えば、[od̃go:tʃan]と発音すべきだが、大概の土佐人が[og o:tʃan]と発音している。識別例外語の一つ。

非 売 品

1968年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区 稲付西山町